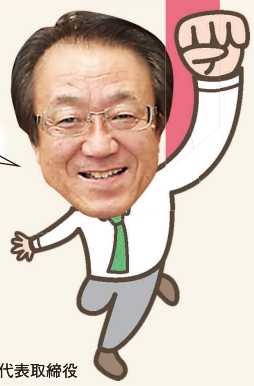
つぶやきがんちゃんの

生活知恵袋

Vol.147

生活に何かと役立つ連載コラム



つぶやきがんちゃん

齋藤 廣勝
（さいとう ひろかつ）
株式会社
トータルライフサポート代表取締役

・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所　年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

今月のテーマ

金融リテラシー“生命保険編”Part.2

先月号では主な保険種類を取り上げ、その中でも代表的な終身保険と定期保険を解説したがご理解いただけただろうか…。終身保険と定期保険の基本的な仕組みは分かっても、これで保険の見直しに着手できるかというと、そう簡単ではない。どちらが“良いか、悪いか”は、それぞれの世帯によって異なることは先般でも解説したとおりだが、先ずはその違いを理解するところから始めなければならない。

先月号で15の保険種類を並べたが全部とはいかないまでも、代表的なものを今後解説していきたい。何か難しいし、面倒くさそうと思っている方もいると思うが、解説しようとしている当の本人も、生命保険って面倒くさいなあと思う。偉そうに言っている当の本人も、元々知識を持っていて保険加入したわけではない。私自身が20代の頃の保険加入はというと、まさに言われるがままの加入であったし、それどころか営業職員の成績のために、拝み倒されての加入もあったのだ。そんなこともあって、生命保険とは何のために加入するのか、甚だ疑問を感じたし、嫌悪感さえ抱いていたものだが皆さんは如何だろうか…。生命保険の加入は、販売する側のためのものではないし、義理人情で加入するものでもない。生命保険におけるリテラシーを身に付けた上で、それぞれの実情に照らし、自らの手による点検・判断が必要だ。保険選びではなく、それぞれの生活環境にあった保障選びでなければならない。

以前、保険の仕組みや社会保障の役割などを説明していた時、ある方が“保険で悩むものなんですね”と唐突に言った。最初その言葉が何を意味しているのか良く理解できなかったのだが、これまでの加入では、勧められた保険への加入の是非だけで、保障の内容や金額を自身で選択することは無かったことが、その背景にあった。“マイホームの次に高い買い物”とも言われているのに…！

今月号の考察は

先月号では終身保険と定期保険を解説し、その違いを経てどう判断するかまで説明したかったが、スペースの都合上できなかった。それぞれの仕組みを説明しただけでは、保険の見直しまで及ばないだろうと思うので、改めて終身保険と定期保険を対比して考えてみることにしよう。

終身保険と定期保険の違いを対比

	終身保険	定期保険
保険期間	終身（一生涯）	一定期間（○年・○歳）
払込期間	有期（年・歳）払い 終身払い	全期間
貯蓄（資産）性	解約返戻金あり	原則なし
保険料	定期保険よりは高い	割安
支払事由	死亡、高度障害	死亡、高度障害
主な目的	葬儀費用、遺産分割、相続、貯蓄（資産）形成	負債整理、期間限定の教育資金など

終身保険か定期保険か？

先にも述べた通りに、保険商品のそれ自体に良い悪いというものはない。しかし、その特性を理解することで、自分に合ったものが何かを見つけ出すことは出来るはずだ。生命保険契約における金融リテラシーを考えた場合、リスクに見合ったものであることを前提とし、それぞれの保険商品の特性が分かって初めて、自らが考え、判断、行動することに繋がるというものだ。しかしながら、存在する生命保険商品の全てを掌握することは不可能に近い。各保険会

保険と暮らしの相談センター
あなたの夢の実現へのお手伝い!!
相談メニュー
☑家計の総合診断（ライフプラン）
☑保険加入・見直し（生命保険・損害保険）
☑住宅取得、住宅ローンの見直し
☑子どもの教育資金計画
☑年金・老後資金計画
相談料は無料です!!
お気軽にご相談ください。
TLS total life support
募集代理店
株式会社
トータルライフサポート
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
●営業時間／9:30～18:00（土・日・祝9:30～17:00）
●定休日／水曜日
TEL 018-827-7611
Fax 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp
▲土崎
新国道
山王十字路▼
紳士服のコナカ
エネオス
すずきクリニック
当店
マクドナルド
洋服の青山
詳細はホームページでもご覧いただけます。

社間の保障内容や保険料の違いは、思いのほか大きく、自分に合った保険商品を見つけ出すのは至難の業とも言える。必要保障を決定するまでのプロセスには、健康保険制度における傷病手当金や高額療養費、公的年金制度における遺族年金や障害年金などの社会保障の情報も忘れてはならない。生命保険料の払い過ぎによる家計負担を抑えるためにも、生命保険以外の周辺情報を含めた総合的な判断は必要不可欠なのである。FPなどの外部知見者を活用した情報収集もぜひ行なってほしい。

何度も言うように、どちらが良い悪いの問題ではないが、その判断の分かれ目をどう判断すれば良いのだろうか?そのポイントを並べてみたので、自分にとっての判断の基準を考えていただきたい。

どう判断するかのポイント

①目的
目的が相続や葬儀費用などであれば終身保険、負債整理や家族への生活費などであれば定期保険を選択。

②保険（保障）期間
その保障目的を、いつまで必要とするかで判断。

③保険料
高くても貯蓄・資産性を選ぶか、掛捨てでも少ない保険料を優先するか。

④組合せ
一定の金額は終身保険、一定期間の重点保障を定期保険として組み合わせる。

これらの判断ポイントを意識した保険選択は、本来の目的を達成する上で重要な問題である。皆さんの加入している保険の実態は、果たしてどうだろうか…!?どこの保険会社に加入しているかでも、それぞれの特徴的な違いが見えてくるが、大事なのは保険会社による保険選択ではなくて、加入者にとって必要な保障内容であるかどうかだ…。

特定疾病保障保険

特定疾病保障保険とは、三大疾病である「がん・急性心筋梗塞・脳卒中」のいずれかにかかったときに一時金が受け取れる保険だ。先に述べた終身保険・定期保険は「死亡保障・高度障害」に限定した保障であるが、これに三大疾病（がん・急性心筋梗塞・脳卒中）に対する生前給付の機能をプラスしたものである。また、保険会社によっては「死亡保障・高度障害」、「三大疾病」に加え一定条件のもとでの「障害状態・介護状態」の場合でも保障するタイプのものもあり、その守備範囲は広い。平均寿命が格段に長くなり、人生100年時代が到来したと言っても過言ではない。勿論、長生きは歓迎すべきことであるが、それによって新たな健康リスクも登場した。介護や障害状態のリスクの言い方を変えれば〝長生き病〟とも言えるのかもしれない。生命保険は長きに渡って、死亡保障が中心という時代が続いていたが、近年に至っては「生きるための保障」という部分がかなり強化されてきたように思える。経済や社会保障制度の変化も相まって、必要とする生命保険と加入の在り方は変わりつつある。

【終身型と定期型】

この「特定疾病保障保険」にも終身型と定期型があり、その違いは先にも述べたように、〝一生涯の保障〟か〝期間限定〟かの違いであり、終身型は資産性があり加入期間が長くなるにつれ解約返戻金も大きくなる。一方、定期保険型は保険期間が終了すると掛捨てになってしまう。「特定疾病保障保険」の終身型および定期型は、保険期間という点においては同じに見えても、保障の目的は大きく異なる点に着目していただきたい。

【終身型か定期型か】

この保険が「死亡保障・高度障害」に加え、「三大疾病」、「障害状態・介護状態」を守備範囲とする性格上、罹患率は人生の後半に行くほど高くなる。であれば、保障切れのない終身型を選択したいものだが、終身型は定期型に比べると保険料は高くなる。しかし、一生涯の保障であれば、保険金を受け取る時期は早いか遅いかの違いはあれ、ある意味取りっぱぐれはない。年齢が若い現役世代では、長期療養や障害状態での就業不能などによる経済的ダメージは、リタイヤ後とは比較にならないくらい高い。そういう点では、現役時代の重点保障という考えに基づく、定期型の選択もアリだが、双方の組み合わせという方法もある。何れにしても、家計の状態や家族環境などを踏まえた、効率的な費用対効果も意識したいものだ。

【単身者の保障選択】

単身者の場合の保障の選択は、死亡保障よりも自身の生活の維持・防衛が優先される。〝お金がある〟ということは、ある意味万能の保障であるし、貯めるという努力は忘れてはならない。しかし、それだけではカバーしきれない三大疾病の罹患時や、障害・介護などによる就業不能時の備えはとりわけ重要だ。それぞれの環境の違いによるリスクの態様は、実に様々だ。目的・必要性を逸脱した安易な保険加入は、無駄な保険料負担を伴うばかりか、自身の生活の安定をも脅かしかねない。しっかりとした生活設計と共に、無駄のない自身のための保険加入を考えていただきたい。これは、単身者だけに限ったことではなく、全ての人に共通する問題だ。

振り返り

今回のテーマは、保険商品の解説であり、その仕組みや特徴を粛々と書けばいいものを、ついつい想いが先行し理屈っぽくなってしまう。分かっちゃいるけど止められないんだよなあ…。まあ、今後ともこんな調子はつづくと覚悟してお付き合い願いたい!

来月号は

引き続き保険商品の解説を続けます。